

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・タブレットを活用し、個別最適化を推進する授業づくり。 ・児童の実態に応じた教材づくり。	中間評価		最終評価	
		・ソーシャルディスタンスや三密回避を意識させる工夫。 ・学習・生活の規律の徹底。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	学 詩や物語など音読を通して、楽しんで学習に取り組んでいる。個人差があり、語彙が少なく、漢字の誤答や書けない漢字が多い児童もおり、作文でも習った漢字を使わず平仮名で書いており、書く量も少ない。	・既習漢字について、正確に書きとる力を伸ばす必要がある。 ・助詞(は・を・へ)や促音、拗音の正しい表記に課題がある。	・年間を通して、漢字練習プリントなどを通して既習漢字を繰り返し書く機会を増やす。また、毎回のノート指導の時に、正しい表記で、既習した漢字を使うよう指導し、定着を図る。		
	算数	学 学習に意欲的で発言も多い。2桁の足し算では、筆算の仕方を覚え、計算することができるようになった。しかし、1桁のたし算がまだ定着していない児童も見られるなど、個人差がある。	・10までの加減計算の技能に課題があり、計算ミスがなく必要がある。 ・文章問題の内容に合った立式ができるようにする。	・文章問題では、立式に必要な数字や言葉に着目させ、立式させるように指導する。また、ドリルパークなどを活用して繰り返し取り組ませる。 ・デジタル教材を用いて、視覚的、体験的に理解できるように指導をしていく。		
3	国語	調 区の学力定着度調査の結果は、区の平均を10ポイント以上下回った。特に、漢字の読み書きの正答率が低い。 学 語彙が少なく、漢字の誤答や書けない漢字も多い。文章を書かせても、習った漢字を使わず平仮名で書いており、書く量も少ない。	・説明文や物語文の読解の力が弱く、文章の内容を正しく読み取ることができるように指導する必要がある。 ・漢字の読み書きに課題がある。作文では、自分の考えを文章に書き表すことが苦手である。	・説明文や物語文の練習問題をやらせるだけでなく、答えの振り返りを大切に、全体で文章を読みとって理解できるようにする。 ・漢字の家庭学習を毎日出す。また、テーマや字数を決めた作文に取り組み、書くことに慣れたり、提示した書き方をもとに、書き方を学んだりできるようにする。		
	算数	調 区の学力定着度調査の結果は、10ポイント以上区の平均を下回った。特に、かけ算と計算の正答率が低い。 学 学習に意欲的で発言も多い。しかしノートに書く時間や計算に時間がかかる児童が多く、計算ミスが目立つ児童も一定数いる。	・文章問題の立式や単位に気を付けた解答をするように指導をする。 ・演習量を増やして、解きながら理解する形を取る必要がある。	・eライブラリなどを活用して、文章問題や計算問題を積極的に取り組ませ、既習の定着を図る。 ・文章問題は、図などに表して考え方をまとめる力をつける。位や繰り上がり、繰り下がりを意識して繰り返し練習することで計算できるようにする。		
4	国語	調 学力定着度調査の結果から、区の平均は上回った。しかし、文章を書くことに関する問題の正答率が低い。 学 学習に意欲的だが、自分の意見を相手にしっかりと伝えることに課題が見られる。ノートに自分の考えを書くときには、伝えたいことが定まっていない児童がいる。	・文章問題を解くときに、何を聞かれているのかを読み取る力を伸ばしたい。 ・既習漢字について正確に書きとる力を伸ばす必要がある。	・既習漢字をミニテストなどの時間を通して取り組ませる。また、ドリルパークなどを家庭学習でも活用して、反復練習する機会を取り入れる。 ・文章を読み取らせるときに、大事な単語や文章の見付け方を共通理解するとともに、定期的に文章を読み取る機会を増やす。		
	算数	調 学力定着度調査の結果から、区の平均を10点近く上回った。しかし、思考・判断・表現や測定に関する問題の正答率が他の問題に比べて低い。 学 計算問題が得意だが、文章問題になると、聞かれていることに正対して答えられていない児童がいる。また、読み取りの問題では、問題を正確に読み取ることの難しい児童がいる。	・国語と同様に、文章問題の意味を読み取ることができるよう指導する必要がある。 ・文章問題に正対して立式したり、答えたりする力を伸ばしていく必要がある。	・デジタル教材を用いて視覚的に文章を読み取らせるとともに、文章の聞かれていることと分かっていることに線を引かせるなどの工夫を授業で取り入れる。		

5	国語	<p>調 学力定着度調査の結果、区の平均値よりも上回った。基礎的な問題においては大きな問題は見られないが、文章を書く問題では無回答が多く見られた。</p> <p>学 自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思ったことや考えたことを書くことができるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」「なか」「おわり」を意識して文章を書くよう指導する。また、学習感想では、読み取ったことに対する自分の考えを書くことを繰り返していく。 テーマや時数を決めた作文に取り組んだり、提示した描き方をもとに書き方を学んだりできるようにする。 		
	算数	<p>調 学力定着度調査の結果は区平均値よりも上回ったが、折れ線グラフの問題の無回答が多かった。</p> <p>学 学習内容は理解しているものの、自分の考えを書いたり、友達に説明したりすることが苦手な子が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グラフの読み取りに課題がある。 自分の考えを表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの読み方など、前学年までの学習内容を復習する。 図や式、言葉で表す方法を教え、それらを活用して自分の考えをノートに表現できるようにする。 		
6	国語	<p>調 学力定着度調査では、文章を書く問題と漢字の書き取りが目標値を下回った。</p> <p>学 意欲的に学習に取り組む様子は見られるものの、人物の心情の変化を読み取ったり、感想をまとめたりすることに消極的な児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書くことに課題がある。 作文することに慣れたり、「始め・中・終わり」の型を身に付けたりして、書く力を身に付ける必要がある。 学習意欲に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを活用しながら、正しい漢字の書き取りができるようにする。 家庭学習で週末作文を行い、書くことが習慣化できるようにする。また、文章を書く際には、文章構成の型を示してから、児童の考えたことや思ったことを書くよう指導する。 児童の記述内容を教師が把握し、多様な考えを引き出しながら児童に自信を付けさせる。 		
	算数	<p>調 学力定着度調査では、区の平均とほぼ同じだが、合同の作図や計算のきまり、平均の活用問題で目標値を下回った。</p> <p>学 自分の考えたことをノートに表すことはできるが、相手に分かりやすく伝えることは苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下位層について学習内容の習熟を図る必要がある。 相手に分かりやすく伝える力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して、一人ひとりの学習内容の定着度を把握する。 単元や授業の導入場面で前学年までの学習内容を復習してから本時の学習につなげる等、学習の系統性を意識して授業を行う。 互いの考えを比較検討する場面で、ICTを活用しながら共通点や差異点、より効率的な考え等の視点をもたせて話し合う活動を取り入れる。 		
音楽	<p>学 全体的には意欲的に学習に取り組んでいる。音楽の諸要素と関連付けて自分の感じたことや気付いたことを伝えることに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年があがるにつれ技能面の個人差が二極化する傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のよさや特徴について感じ取ったり、どのように表現したいという思いをもって表現したりする。 リズムと拍の違いや、音程や音の長さといった音楽の諸要素について理解することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素を掲示し、常に意識して見られるようにする。 動画や音源などを活用し、活動への見通しやイメージをもって学習に取り組めるようにする。 学習の視点をしっかり意識させ、他の児童の良い気付きを共有できるようにワークシートや実物投影機の活用、発表の方法を工夫する。 			
図工	<p>学 造形活動に興味を持ち、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。 材料や道具に触れ、ものづくりを楽しむが、つくりながら発想を広げ、深めることが難しい児童がどの学年にも若干名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な道具や材料の扱い方の苦手をなくす。 造形活動に対する苦手意識をなくす。 手順通り作る過程で、試す、工夫する等、よりよいものにしようと追究する力を培っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を多く積ませる。 実物投影機やタブレットを活用し、活動途中で他の児童の作品やアイデア等を紹介する。 材料や用具を自分の表現に合わせて「選び・試す」ことができるような時間を確保するなど、学習過程を工夫する。また、「選び・試す」ことに取り組みやすいような場の設定を行う。 			
特支	<p>学 学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生の指示や友達の話聞いて正しく理解することが難しい。 グループでの話し合い活動も苦手になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> わからないことは「わからない」と伝えられるようになる。 教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに口に出したりせず、他の人の意見を聞いてから、それを受けて自分の意見を述べるができるようになる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> わからない時に伝える言葉、話型の提示。全校での理解。 月1回の「コグトレドリル」を全学年で実施。聞く、想像するなどを中心とした認知機能を高める指導を行う。 			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。